



はじめて受け入れたボランティア

6月上旬、弘前市ボランティア支援センターから青山学院大学国際ボランティア団体14名が青森で農作業のボランティアの受け入れ先を探していると電話がありました。

私はボランティアというと震災で瓦礫の撤去作業というイメージがあり、すぐ断るつもりでしたが、農作業ボランティアということで、迷いながらも、私の心の奥底から「断ることは簡単「チャレンジ!チャレンジ!」という声がありました。でもどうしたら良いか全く分からない、断る気はない、前向きに検討したいと胸の内を、すぐ上司に相談しました。市役所農林課内でもボランティア活動を受けるか受けないか賛否両論はあったことは事実です。ただ、黒石市には昨年から取り組んでいる「ワーキングホリデー黒石」という農作業と農泊など地域交流等を首都圏の学生に実際に黒石に来て体験してもらう事業があります。この事業を進めているうちに農家さんとは顔なじみになり繋がっていたので農作業ボランティアを受けることについては問題なしと思っていました。しかし、引き受けてから日程が8月10日から17日というリンゴ作業のない時期だったので、どうしようかと思いました。あ! そうだ! 黒石市には沖揚の高冷地野菜があると思い、レタス農家さんに相談しました。なんと偶然にもレタス農家さんは青山学院大学国際ボランティアOBであったため早く農作業ボランティアを受入れてくれました。着々と受入れ体制が整って来たと思いましたが、宿泊場所がなく困っていたところ、大川原町内会の皆様のご厚意で町内の「ふくじゅ草会館」を宿泊場所として提供していただくことができました。大川原町内会の人々の器の大きさには唯々



頭が下がりました。


そこで私は大川原町内会に恩返ししたいと思い、学生さん14名で何ができるのか考えました。あつ! 大川原には毎年8月16日に約600年前頃から始めた精霊流し、集落を流れる中野川で舟3隻に火をつけ若者が引き、無病息災を祈るおまつり「大川原の火流し」(県)無形民俗文化財があります、そのお祭りの雑用の手伝いをさせて欲しいと頼みました。大川原町内会長は「我々も伝統ある

火流しを継承して行くことが難しい時にきている、まずは村に若者がいない、外から巻き込んでもっとお祭りを盛り上げて欲しい」との訴えでした。あ! 農家さんも高齢化で人数も減少している、ここのお祭りにもまた少子高齢化の波が来ているとしみじみ思いました。



さて本番、学生さん14名が黒石に到着しました。農作業ボランティア(レタス・花きの収穫、朝市の伝票整理)大川原火流しボランティア(町内の提灯を飾り、囃子、舟を作成、舟を引く)ふるさと元氣まつりのスタッフボランティア(テント組立、草刈)など慣れない環境の中、津軽弁と農作業に奮闘し、学生さん達は心地良い疲れだと言っていました。そして黒石付近を知って欲しいとの思いから、こみせ通りの散策、三内丸山遺跡、白神山地を案内し、キミ(とうもろこし)を食べに行ったりして、喜んで帰りました。

「くろいし」の美味しい水、あずましい温泉、美味しいりんごを食べ、テーマパーク等、何も無いけど、人情が厚い黒石を故郷だと思ってまた来て欲しい。そして、この青山学院大学国際ボランティア団体のメンバーの成長がなにより楽しみでなりません。

黒石市役所農林課六次産業化推進係 主査 村元和香子 



***** お詫びと訂正 *****

ふくろう通心 68号に掲載したコミュニティカフェ『らみい』の営業時間について、正しくは10時~15時です。お詫びして訂正いたします。

～弘前アレズ～ 地域のために磨く自主性

ボランティアスタッフ：石岡佳樹

『弘前アレズ』は、地域企業からの協賛金を軸に活動する市民球団で、設立当初からA—F I E L D活動と銘打って社会奉仕活動を行っています。A—F I E L D活動は、地域への感謝の気持ちの還元としてはもちろん、選手の皆さんが自主的に考え、行動する自主性を育むために行う活動でもあります。監督の久保さんは「選手の年齢は20代がほとんど、今後選手としても社会人としてもステップアップするきっかけになってほしい」と言い、地域貢献へのひたむきさを感じました。

A—F I E L D活動で最も印象に残っている活動は、冬期に行った雪かきのボランティア活動だそうです。選手の皆さんで高齢者のお宅にお邪魔し、降り積もった雪を手作業で除雪をし、一日に何件ものお宅を周回して、長いときは朝の8時からお昼の12時頃まで作業したこともあるそうです。そんな雪かきのボランティア活動を通じてアレズの皆さんはある発見をしたそうです。それは『ボランティア活動を行う方々の高齢化』で、雪かきのボランティア活動を行っているのは60代の方々が大半で、毎年のようにニュースになる高齢者の雪かきによる転落事故は現実の課題として確実に地域に存在していることに気づいたと…。こうした地域の課題を解決していくために自分達には何が出来るのか、社会奉仕活動を継続的に行ってきた結果、これまで見えにくかった新たな課題が見えてきたそうです。こうした経験は社会奉仕活動だけでなく、本来の野球へも生かされており、弘前アレズでは今年の1月から選手一人一人が自分達で練習メニューを考え、ミーティングで意見を出し合い、次の試合へ生かしていくという自主性を持った野球チームとし成長したようです。地域の皆さんへの感謝の気持ちを胸に弘前アレズの皆さんはこれからも幅広い社会奉仕活動を展開していくとお話してくれました。



弘前市民球団プロジェクト弘前アレズ
〒036-8326 弘前市藤野二丁目10-4
FAX 0172-36-5355
URL www.hirosaki-areds.com

第4回 ほっと♡ほらんていあのお知らせ

1月12日(土)13:30~15:30 市民参画センター3階グループ活動室で開催します。
ゲストはココナツ・クラブ代表の對馬均さんです。ココナツ・クラブとは…弘前市を中心に活動するフォークソングを愛する同好会のみなさんが、地域のみなさんに音楽を楽しむことを“おすそわけ”という形で、一緒に歌い楽しむ音楽会を開いている団体です。みなさんも参加して、一緒に、心に残るあの歌この歌と一緒に歌いませんか？



豆知識

恵比寿様

年賀状や初詣で目にする七福神。左手に鯛を抱え右手に釣竿を持った親しみ深いお姿の『恵比須天』。漁業の神で特に商売繁盛の神様として信仰が厚いこの恵比寿様だけが唯一日本の神様です。

ちなみに大黒天、毘沙門天、弁財天がインド。寿老人、福祿寿、布袋尊が中国の神様です。



カレーのお供福神漬け。

ナス、ナタマメ、レンコン、ダイコン、シロウリ、シソ、ショウガなど七種の野菜を調味醤油に漬け込んだもので1885年東京上野池の端「酒悦」が売り出した。お店が不忍池の弁財天が近いところから七福神にちなんで『福神漬』と命名。何気なく食べている福神漬けもありがたい気持ちになりますね。



編集後記



最近、スタッフ会議に何度か足を運んでくださる方がおります。今までスタッフは2名という時が多かったので、その方が会議に加わるといつもと違う雰囲気新鮮味があり楽しく会話も弾みます。会議のある日は毎回「今日は居るかな」とワクワクしながら扉を開けています。

ふくろう通心はいつでも新しいメンバー大歓迎です。ボランティアに興味あるなしに関わらず金曜日の午後ちょっとだけおしゃべりに参加してみませんか。お待ちしております!(^^)!

ボランティアスタッフ 0.Y



＜制作＞市民ボランティアスタッフ
＜制作協力＞弘前市ボランティア支援センター
〒036-8355 弘前市大字元寺町1-13 弘前市民参画センター内
TEL:38-5595 FAX:36-1822
H P: www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/
情報紙についての意見・感想をお待ちしております。